



普及センター

だより

Let's try

バケツでの

米づくり

お米がどのようにできるか知らない子供が多くなってきました。お米をじっと見つめてみましょう。精密な植物のしくみと、人間の努力が見えてきます。バケツ稲は家庭で観察できる簡単な方法です。



栽培の方法

種子から栽培する場合は①から、苗から栽培する場合は⑦から始めて下さい。

- ① 4月中旬にボールに水を張って種を浸します。毎日水をかえて10日間浸します。
- ② バケツに7分目位まで土を入れます。肥料を少し入れてよく

- かき混ぜます。
- ③ 土の表面にちよつとだけ水がたまるくらいバケツに水を入れます。
- ④ 十分に浸しておいた種粒を中央に5粒播きます。その種粒がかくれるくらい土におしこみます。
- ⑤ 太陽の十分当たる暖かいところにおきます。芽が出るまでは水は表面が乾かない程度に管理します。
- ⑥ 2枚目の葉が出始めたら、徐々に水を入れていきます。
- ⑦ 苗から始める場合は、5月上旬に土から3cm位水を張ったバケツに1本ずつ数箇所に植え付けます。
- ⑧ (6月上旬までは水を3cm程度張っておき、苗が分けつを始めたら間引きして一株にしておきましょう)

- ⑨ その後は、収穫まで土が乾いたら水をを入れるを繰り返します。
- ⑩ 肥料は、7月15日頃化成肥料を10粒位いれます。肥料は、これで十分だと思いますが、近くの田んぼより葉が黄ばんでいるようなときは肥料不足ですので少しだけ肥料を与えます。
- ⑪ 8月の上旬には穂がでて花が咲きます。穂がでる前(7月下旬)には茎がふくらんできます。茎をむいていくと小さな白い穂の赤ちゃんが入っています。
- ⑫ 収穫は9月上旬に行います。籾粒の8割以上が黄色になったときが刈りごろです。根元から刈り取り、束にして風通しがよく雨の当たらない場所に10日程度吊して乾かします。
- ⑬ できた稲はドライフラワーやお正月の飾りにして楽しみましょう。
- ⑭ 1つのバケツで上手に作ると、茶わん半分のご飯になります。農家の方も新しい品種を作るときバケツに稲を作っておくと便利です。バケツの方がほ場より生育が早いので、穂肥の時期を逃さない目安になります。

農畜産科 荒木田

用意するもの

- ・ バケツまたは発泡スチロールの箱
- ・ 稲の種(20粒くらい)
- ・ または苗(田植えが終わった頃、近くの農家に余った苗を分けてもらいましょう)
- ・ 土 田・畑・排水路どこの土でも良い

文芸

俳句

神官の無垢なる白衣年新た

福田 晴一

新年の空や雲似る海老に鯛

今関 茂生

駿河屋の暖簾もさだか初芝居

戸村 静華

看護婦に辞をひくうして年の暮

土屋 栗水

雑炊や戦時の思ひ巡り来る

玉虫たけし

お雑煮や餅はいくつと子等に間ひ

若梅あやめ

初日記数句したたむ余白かな

藤代 ゆう

町長の無線放送年頭に

福田 幸子

初日の出関八州を照らしけり

鈴木 草庵

新年の夢は一家の船の旅

小林 順子

折鶴の少し動けり隙間風

選者 山口 一秋

短歌

八十歳の誕生日をけふ迎へたり險しきいくつ辿り辿りて

秋葉 とく

保育園の孫にも勝てぬカルタ取り

体の動き鈍くなりきつ

鈴木 やす

うつつらと初雪積もらせわが車勤務終へるを待ちてくれるつ

西山満里子

幾年も使ひ込みたるストープに今日はおでんの湯気たち登る

八角 三枝

大き樹の根元に咲ける百合一輪根縮とも見てしばし佇ちあつ

齊藤 要

外にでて遊ぶ童の姿なく夕日静かに団地を照らす

池田 春江

難聴の友スイミングの入会を断はられしと手話も告げぬ

中越美代子

しづけしと窓より見れば音もなく陸月の空を雪の降りつぐ

石井 ユク

降りつぎて一メートルを越ししとふ人居ぬ生家の屋根を思へり

佐瀬 初音

正月も病院よりは戻らぬと言ひて老い母去りてゆきたり

古川 郁代

柚子入れし湯に温もれと冬至の朝遠住む吾娘が電話くれたり

萩原 信一

指をもて用事たのむに夫もまた黙したるまま盆とりくれぬ

選者 斎藤つね子

